

単元名：韓国人留学生のためのガイダンスで相談窓口になろう

科目名	韓国語	作成日	-	作成者	プロジェクトメンバー
学年／年次	-	クラス人数	-	使用教科書と課	-
話題分野	人とのつきあい	言語レベル	3	必要時間数	9時間

I 単元目標

韓国人留学生のために、大学の施設の使い方や、大学内外の生活の習慣、ルール、マナーについて、韓国のそれとの違いを踏まえて説明し、留学生が感じる戸惑いについてアドバイスができるように、事前に調査をしたり資料を作成したりすることができる。

	言語	文化	グローバル社会	学習者	教室外	他教科
わかる						
できる						
つながる						

言語領域	文化領域	グローバル社会領域
<p>◆韓国の大学生活や施設の使い方などについて書かれた文章を読んで理解することができる。</p> <p>◆日本の大学生活や施設の使い方などについて、口頭や文章で説明することができる。</p> <p>◆日韓の違いを踏まえ、事前に調査したこと、用意した資料を活用しながら、韓国人留学生の戸惑いに対し、口頭や文章でアドバイスを与えることができる。</p> <p>◆相手の立場に立って、親身になって相談に乗ったり、問題解決に役立つ情報を提供することができる。</p>	<p>◆日韓の日常生活や大学生活の習慣、ルール、マナーについて知り、相違点とその背景について、比較・分析することができる。</p> <p>◆韓国人留学生が日本で暮らし、勉強する際、ことばの壁以外に、どのようなことに戸惑いや違和感を感じるかについて知り、その要因を分析し、解決法について考えることができる。</p> <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>	<p>◆国によって、大学のシステムや運営の仕方などが異なることについて知る。(知識理解)</p> <p>◆分担して調査し、情報を持ち寄って、資料を完成させることができる。(協働、情報活用)</p> <p>◆共に学ぶ仲間として、韓国人留学生がスムーズな留学生活を送れるよう、尽力することができる。(社会貢献)</p> <p>★学習者のコミュニケーション能力レベルに応じて、日本語の助けを借りて行ってもよい。</p>

<p>コミュニケーション能力指標</p>	<p>【人とのつきあい】</p> <p>2-g. 人とのつきあいを円滑にできるような表現(ねぎらい、励まし、期待など)を言ったり、聞いて理解したりできる。</p> <p>3-a. 日本ではどんなときにどんなあいさつをするか、口頭または文章で紹介できる。</p> <p>3-b. 相手に受け入れてもらえるような表現を使って、口頭で忠告や断りなどができる。</p> <p>3-c. 相手の年齢や立場を配慮して、手紙を書くことができる。</p> <p>3-d. 相手の国の家庭や学校で守らなければいけないマナーやルールについて書かれた文章を、読んで理解できる。</p> <p>3-e. 日本の家庭や学校で守らなければいけないマナーやルールについて、口頭でまたは書いて説明できる。</p> <p>3-f. 日本と相手の国の人びとの好みや日常の習慣・つきあい方について書かれた文章を、読んで大意を理解できる。</p> <p>3-g. インターネット・電話・ファクスの使用に関する指示を、聞いて理解できる。</p> <p>【日常生活】</p> <p>4-a. 困っていること、悩んでいること、不満に思っていることなどを、打ち明けたり、聞いてあげたりできる。</p> <p>★言語領域の「できる」の目標を設定する際に参照した指標。他の領域の目標設定とも連動している。数字は【言語レベル-指標表番号】を表示している。</p>
----------------------	--

Ⅲ 学習活動と評価	
プレコミュニケーション活動（語彙・表現習得活動）	学習を助けるための評価（形成的評価）
<p>◆学生がペアになって、お互い最近頑張っていることを伝え合い、そのことについて、互いにねぎらったり、励ましたり、期待などを述べる。【2-g】</p> <p>◆大学内外の施設や団体における習慣やきまり、日常生活や大学生活で守らなければならないマナーやルールについて書かれたロールカードを使って、日本人学生と韓国留学生の役のペアになってロールプレイを行う。韓国留学生はロールカードに書かれた韓国のことについて説明し、日本でも同じかどうか質問する。日本人学生はロールカードに書かれた日本のことと比較し、同じ場合は同じと答え、異なる場合は説明する。【3-d,e,f】</p> <p>◆日本に在住する韓国人が感じる典型的な戸惑いやトラブルの例をいくつか用意し、学生はそのどれかを選んで、相手の年齢や立場を考慮して、手紙やメールをアドバイスを書く【3-c】</p> <p>★【 】内は対応するコミュニケーション能力指標</p>	<p>◆韓国留学生と日本人学生の役になって、ロールプレイをする。(相手の話を理解したか、説明が適切か、会話ストラテジーなど)</p> <p>◆相手の年齢や立場を考慮して、手紙やメールをアドバイスを書く。(体裁や表現の適切さ、相手への配慮、アドバイスの適切さなど)</p>
コミュニケーション活動（学習シナリオ）	
<p><場面状況></p> <p>M大学では提携する韓国の大学から、毎年、多くの韓国留学生を受け入れており、学期の初めには「韓国留学生のためのガイダンス」も行われている。しかし、韓国留学生は来日当初、生活習慣やきまりなどの違いから戸惑いを感じているという。そこで韓国語クラスでは、「韓国留学生のためのガイダンス」の日に、「相談窓口」というブースを開設し、授業や学校施設、寮、サークルなどの紹介をするとともに、習慣やルールに関する情報を提供することにした。</p> <p><活動の流れ></p> <p>韓国の大学HPに掲載されている「学生生活」のコーナーの文章を読み、日常生活や学生生活に関し、自分たちと比較する。その後、現在、大学内に在籍する韓国留学生を対象に、留学生活でどのような点に戸惑いを感じたかについてアンケート調査を実施する。アンケートを作成するグループは、留学生の率直な意見を引き出す方法を議論したうえで作成する。アンケートを依頼する手紙を書くグループは相手の立場にたって書くように工夫する。</p> <p>また、グループに分かれ、留学生が利用する施設(キャンパス、図書館、寮、留学生センター、履修申告の受付部署など)や団体(部活、サークル、委員会、アルバイト先など)での習慣やきまりについて調べ、発表する。</p> <p>これらの2つの調査結果をもとにガイダンスの日に「相談窓口」で提供する資料を作成する。日本の日常生活や大学生活に関するこれらの資料を使って、留学生の相談の応じるロールプレイをする。</p> <p>ガイダンス当日は、前記資料を活用しながら留学生の相談に応じる。後日、「相談窓口」で新たに発見した点や資料に追加したほうが良い情報など、振り返りの時間を設ける。これらの議論を生かし、さらに充実した情報を提供するために韓国留学生を対象とした「相談窓口」ブログを立ち上げる。ブログにはよくある質問(Q&A)を設けたり、個人的な相談にも応じられるようにする。</p>	
<p><目標達成度を測る全体的評価(総括的評価)></p> <p>◆「相談窓口」で提供する資料を作成する。(情報の適切さ、量、分かりやすさ、表現・表記など)</p> <p>◆資料を使って留学生の相談の応じる。(姿勢、資料の使い方、発音、タスク達成度など)</p> <p>◆ブログに日本の日常生活や大学生活の習慣やルールについて記事を書く。(視点の広がり、深まり、姿勢、表現など)</p>	
<p><使用教材・教具></p> <p>PC、インターネット、プロジェクターなど</p>	
教室外(人・モノ・情報)との連繋	他教科の内容との連繋
<p>学内の留学生、留学生センター、図書館、大学の寮など</p>	<p>社会、情報</p>